

KASAI データバンク 人口 / 48,916 (-64) 世帯数 / 16,970 (-16)
 H21.4.30 現在 (前月比) 男 / 23,794 (-31) 女 / 25,122 (-33)
 4月の出生数 / 26人 死亡数 / 30人



▲菜の花畑・散策ウォーキング

宇仁の里・花畑街道 菜の花まつり

4月19日、田谷町公民館をメイン会場に、宇仁郷まちづくり協議会が「宇仁の里・花畑街道一菜の花まつり」を開催しました。参加者約300人は、菜の花畑・散策ウォーキングとして、メイン会場から国正町方面への東コースと青野町方面への西コースの各8kmのコースに分かれ、道中各所に咲き誇る美しい菜の花畑の風景を堪能。地場農産物の販売や抽選会等も行われ、訪れた人々は、宇仁の里での春の休日を満喫しました。

■宇仁地区で入学等に祝い金

同協議会は、住民の子育て支援を目的に、宇仁小学校の新一年生を対象に祝い金を贈る制度を始めました。財源は各町の自治会費より捻出。今年度は11名が対象となりました。

九会小学校4年生がトマト農家を見学

4月23日、九会小学校4年生69人が、社会科の環境学習の一環として、上宮木町の岡田毅さんのビニールハウスを訪問しました。

子供たちは、トマトの観察を行い、栽培方法や農業の持つ魅力について質問。岡田さんの指導のもと、収穫を手伝うとともに、新鮮なトマトを味わいました。トマトの苦手な子供も「甘くておいしい」と大喜び。

加西はトマトの産地として50年の歴史を持ち、全国的にも珍しい田畑輪換と呼ばれる栽培方法を採用。病害虫や台風被害を回避します。味の特徴は「丸みがあり、酸味が少ない」といわれています。



岡田さん(右)の指導の下、トマトを収穫▶



▲参加者みんなでタケノコ掘り

親子でタケノコ掘り

子育て中の親子を支援するボランティアグループ「まちの子育てひろば応援団・みつばちくらぶ(金志直美代表ほか10名)」が、4月24日、上万願寺町のまちづくりグループ「原始人会」の拠点施設「交流館」で、親子が気軽に集い、母親たちがくつろげる場の提供をと、活動を始めました。

第一回記念イベントのタケノコ掘りには、市内外から親子7組16名が参加。原始人会メンバーの指導のもと、隣接する竹林で、タケノコ掘りを楽しみました。

みつばちくらぶの活動は、毎月第四金曜日(次回5月22日)、上万願寺町の原始人会「交流館」で開催されます。申込不要で現地集合。

詳しくは、ねひめキッズ(☎0790-42-5710)までお問い合わせ下さい。

加西菜の花フェスティバル開催

加西市は、菜の花栽培から食用油の搾油を始め、廃食用油を軽油代替燃料(BDF)として精製・利用を行うことで、地球にも地域にも優しい、資源循環型システムの構築を目指しています。この取り組みに広く市民の方にも親しんでもらおうと、4月12日「第2回加西菜の花フェスティバル」を開催。会場は菜の花畑のある東横田町で、菜の花を使った様々な菜の花フードや、可愛い動物たちとのふれあいコーナーなどに、子供からお年寄りまで賑やかに春の祭典を楽しみました。

■写真コンテスト「菜の花大賞」など受賞作品を展示

同フェスティバルに併せて、「菜の花」をテーマにした写真コンテストを開催。全14作品の応募がありました。受賞作品は5月18日(月)から22日(金)まで、市役所1階ロビーで展示します。



▲動物たちとのふれあいコーナー

コシノヒロコさんが、直筆の書を寄贈

この度、ファッションデザイナーのコシノヒロコさんより、直筆の書2点を寄贈いただきました。

これは、コシノヒロコさんの母、綾子さんが、加西市若井町の出身であり、ご本人には「加西市地域ブランド認定委員」をお務めいただいているというご縁から実現したものです。

今後、市役所1階ロビー等に展示する予定です。



市長の市政改革への「情熱」を期待して▶



▲加西市民には「希望」を

都染町で無線放送開始

まちの情報共有を目的に、都染町自治会が無線放送設備を独自で導入、4月から放送を開始しました。放送設備は、公会堂に設置した送信機から、町内63戸全てに設置された受信機に、一斉放送やグループ放送が可能。送信機はリモートコントロール機能がついており、離れたところから携帯電話等で情報を発信することができ、受信機には録音機能により、住民の外出時に情報の伝達漏れの心配がない等、便利な機能を備えています。

同町の松岡勝己区長は「住民の連帯意識を高めるには、地域の身近な情報共有が欠かせません。無線放送はそのためのコミュニケーションツール。いろいろな利用方法があると考えています。それをまちの活性化のために、どう活用していくかが今後の課題です」と地域のまちづくりについて熱心に語られました。



▲無線放送設備。全戸へ一斉放送

この春咲いた加西の貴重な植物

加西市は、自生・栽培問わず貴重な植物の宝庫。四季折々に珍しい花々が咲きます。その一部をご紹介します。



市内山中で自生する希少種「カタクリ」

ユリ科の多年草。高さ20センチほどに育ち薄紫色の花を咲かす。関西に自生地はそれほど多くなく、県内では丹波地方に群落があるが、北播磨地域では珍しい。県のレッドデータブックCランクに指定されている希少種。



県立フラワーセンターが栽培するセントポーリア「ゲッツィアーナ」

アフリカ中部タンザニアの熱帯雨林で自生。栽培が困難で、「幻のセントポーリア」と呼ばれる。平成18年に兵庫県立フラワーセンターで国内初の開花に成功。現在も国内での栽培は同センターのみで、開花を観る事は世界的にも大変珍しい。

■歓待の心でお待ちしています。

3月20日に開催された「第6回加西ロマンの里ウォーキング」に、滋賀県より参加された方から次のようなメールが届きました。

「終了後、国道を歩いていると、軽四に乗ったスタッフの方が親切に道を教えてくださいました。無事目的地に着くことができ、姫路行き最終バスに乗ることができました。教えてくださった方に感謝します。1週間後に北条鉄道で北条町まで出かけ散策、北条鉄道の枕木を1本寄贈させていただきました。」



加西ロマンの里ウォーキング国宝と酒蔵を巡るコース

訂正：先月号10頁で加西ロマンの里ウォーキング参加者を約230人と掲載しましたが、約350人の誤りでした。